

米国アカデミー賞公認アジア最大級の国際短編映画祭ショートショート フィルムフェスティバル &amp; アジア

**ARUHIアワード2022 受賞作品発表！**  
**大賞は多様な家族のかたちを描いた短編小説**  
**「淵上家の義理族」****義母と義理の妹と3人で同居する女性の不思議な暮らし**

米国アカデミー賞公認、日本発・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア（略称：SSFF & ASIA）」が展開している、短編小説公募プロジェクト「BOOK SHORTS（ブックショート）」は、国内最大手※の住宅ローン専門金融機関アルヒ株式会社とコラボレーションし、『ARUHI アワード2022』を開催いたしました。

①『新しい生活』②『わたしの「家族」』という2つのテーマで、2022年7月1日～10月31日までの四ヶ月間に短編小説を募集した今回、日本全国から602作品の応募がありました。ARUHIマガジンでは、毎月の応募作品から選ばれた月間優秀作品を全文公開しております。

そしてこのたび、全応募作品のなかから選ばれたARUHIアワード2022大賞作品ほか、3点のARUHI賞受賞作を発表いたしました。

※ 累積融資実行件数及び金額 2022年6月 株式会社 日本能率協会総合研究所調べ

**ARUHIアワード2022****大賞 賞金 30万円 + ショートフィルム化を検討****ARUHIアワード2022大賞作品****「淵上家の義理族」河村みはる**

義母との静かな戦いを投稿したインスタが話題となっている人気モデルの翔子。夫を亡くした女三人、相容れないがどこか通じ合っている不思議な暮らし。家に入る、ということの深いところで共有している女たちはきょうも美しい諍いを繰り広げる。

全文公開URL：<https://magazine.aruhi-corp.co.jp/0000-5653/>**ARUHI賞（①『新しい生活』）：「ふやけてもいいですか？」小松波瑠**全文公開URL：<https://magazine.aruhi-corp.co.jp/0000-5655/>**ARUHI賞（①『新しい生活』）：「退屈なコピペの日常」木戸流樹**全文公開URL：<https://magazine.aruhi-corp.co.jp/0000-5738/>**ARUHI賞（②わたしの「家族」）：「共鳴家族」秦大地**全文公開URL：<https://magazine.aruhi-corp.co.jp/0000-5736/>

大賞受賞者には賞金30万円、ARUHI賞受賞者にはそれぞれ賞金10万円が贈られます。受賞作や月間優秀作品はARUHIマガジンにて全文を公開しております。

## 「淵上家の義理族」河村みはる 選評

2019年に続いて2回目の開催となった「ARUHIアワード」には、前回は上回る602作品の応募が集まりました。①『新しい生活』②『わたしの「家族」』という2つのテーマに対して、独自の切り口と多様な解釈で創作していただいた作品が多く、非常に読み応えがありました。そのなかで大賞に輝いたのが「淵上家の義理族」（河村みはる 著）です。

受賞作は、夫に先立たれた3人の女性が一つ屋根の下に暮らす、というお話ですが、彼女たちに「血のつながり」はありません。主人公の翔子、翔子の亡くなった夫の母親、（翔子の夫と同じ事故で亡くなった）翔子の義弟の妻である袖乃——つまり、姑と嫁2人という組み合わせです。三人を「家族」としてつないでいたはずの二人の男がすでにこの世にいない以上、三人をつなぐものはなくなってしまったように思えるかもしれません。まして、嫁と姑というのはとても難しい間柄。同居生活は一筋縄でいくはずがありません。実際、三人の間では、<ご機嫌とっちゃって、嫌だわ> <またそんなつまらない恰好をして、（中略）、冴えない姿ねえ>といった穏やかでない会話が飛び交います。<そうだった。家には怖い魔女が、じゃなく、怖い義母が待っているのだった。早く捧げものを渡さねば何をされるか。くわばら>。

けれども、彼女たち三人は同じ家で暮らし続けます。それはどうしてか。もちろん、亡くなった男たちが残した遺言にそう書かれていたことは大きな理由でしょう。彼らの思い出が詰まった家で暮らしていたいという思いもあったかもしれません。しかし、それ以上に、この作品を読むと感じられることがあります。この三人はもともと、二人の男がきっかけで「家族」になりました。けれども、一つ屋根の下で暮らすことによってその関係に変化が訪れます。そう、誰かを介した「義理」の関係から、彼女たち自身が直接深くつながっていったのです。一文一文からそうしたイメージが浮かんでくるところがこの小説の最大の魅力です。

いつの日か彼女たちのうちの誰かがこの家を出ることがあるかもしれません。それでもきっと三人の関係はいつまでも変わらないでしょう。そうあってほしいと願わずにはいられません。そんな新しい「家族」のかたちを描いた「淵上家の義理族」（河村みはる 著）が今回の大賞作品です。

## ARUHI賞（①『新しい生活』）：「ふやけてもいいですか？」小松波瑠 選評

東京から福島にある亡き祖母の暮らした家に引っ越した女性のお話。若くして責任ある立場に就いた彼女には、部下の退職や職場での人間関係の難しさなどさまざまな困難が付きまとっていましたが、移住先での幸せな出会いによって、肩に乗っていたいろいろな重荷を少しずつ下ろせるように変化していきます。そして、その「新しい生活」は彼女に、一歩前に進む勇気まで与えてくれたのです。とても優しい気持ちになれる一作です。

## ARUHI賞（①『新しい生活』）：「退屈なコピペの日常」木戸流樹 選評

「コピペ」のような同じ毎日に退屈していた主人公が体験した不思議な出来事。走り去ってしまった「高校生の自分」を追いかけて幼馴染のユキコとともに母校を訪ねたカズヤは懐かしい景色を目の当たりにします。<（高校生って）俺らにとって毎日同じことの繰り返しだなーって思いながらも退屈じゃなかった最後のときだったんじゃない？>。それでも、いくつになっても自分次第で繰り返しの毎日を楽しむことができるようになるのだと教えてくれる作品でした。

## ARUHI賞（②わたしの「家族」）：「共鳴家族」秦大地 選評

お風呂に入った女子高生とその家族のコミュニケーションを描いたお話。女子高生が友人との気まずいやりとりを回想するなか、家族との会話はほんの少しですが、読み進めるごとにそのとても素敵な関係性が浮かび上がってきます。<いつもつながっている。ちょうどいいかんじに繋がっている>。みんながそれぞれの悩みを共有しながら寄り添いあっていける家族って素晴らしいなと思われました。弟や母親が主人公の物語も読んでみたいです。

### 【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア】

米国俳優協会（SAG）の会員でもある俳優 別所哲也が、米国で出会った「ショートフィルム」を、新しい映像ジャンルとして日本に紹介したいとの想いから1999年にアメリカン・ショート・ショートフィルムフェスティバル創立。2001年には名称を「ショートショートフィルムフェスティバル（SSFF）」とし、2004年に米国アカデミー賞公認映画祭に認定されました。また同年、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成を目的とし、同年に「ショートショート フィルムフェスティバル アジア（SSFF ASIA 共催：東京都）」が誕生し、現在は「SSFF & ASIA」を総称として映画祭を開催しています。

2018年に映画祭が20周年を迎えたことを記念し、グランプリ作品はジョージ・ルーカス監督の名を冠した「ジョージ・ルーカス アワード」となりました。2019年1月には、20周年の記念イベントとして「ショートショートフィルムフェスティバル in ハリウッド」が行われ、また、2019年の映画祭より、ライブアクション（インターナショナル部門、アジアインターナショナル部門、ジャパン部門）およびノンフィクション部門の各優秀賞4作品が、2022年からはアニメーション部門の優秀賞を含む5作品が、翌年のアカデミー賞短編部門へのノミネート候補とされる権利を獲得しました。SSFF & ASIAは映画祭を通じて引き続き、若きクリエイターを応援してまいります。

【公式ウェブサイト】 <https://www.shortshorts.org>

### 【アルヒ株式会社について】

ARUHIは、家を買いたい、人生を変えたいと思った「ある日」を住宅ローンでサポートする、国内最大手の住宅ローン専門金融機関です。住宅ローンをコア事業として、お客さまひとりひとりに最適な住みやすい街と家探しから、住み替え時のお手伝いや住み替え後の暮らしまで、ライフステージに合わせさまざまな商品・サービスをご提供する「住み替えカンパニー」としてさらなる進化を目指しています。

【コーポレートサイト】 <https://www.aruhi-group.co.jp/>

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショート実行委員会 担当：田中 E-mail：[press@shortshorts.org](mailto:press@shortshorts.org)

【本資料に関する画像については、下記よりダウンロードいただけます】

[https://drive.google.com/drive/folders/1ChNU1\\_S2UhNne2w1N\\_czPa74CRKJdOWI?usp=sharing](https://drive.google.com/drive/folders/1ChNU1_S2UhNne2w1N_czPa74CRKJdOWI?usp=sharing)